



更女しまね

第6号 2019.12.1

島根県更生保護女性連盟 松江保護観察所内 TEL (0852) 21-3767



ホーランエンヤ

ホーランエンヤは松江市で行われる城山稲荷神社の式年神幸祭の通称です。大阪府の天神祭り、広島県の厳島神社の管弦祭と共に日本三大船神事での一つとされ、10年に一度行われます。総数100隻以上に及ぶ豪華絢爛たる伝馬船大船行列は壮大であり、権伝馬船での華麗な「権伝馬船踊り」は松江市指定無形民俗文化財に指定されております。

更生保護女性会に期待すること



松江保護観察所長

穂坂 英樹

更生保護女性会員の皆様には、平素、県下各地において、犯罪や非行のない明るい社会づくりのため、“社会を明るくする運動”を始めとする犯罪非行防止活動、過ちを犯した人や非行した少年が読書を通じて、教養を高め、寛容な心や堅固な精神を育むための愛の図書寄贈運動、地域における若年世代との交流を通じた子育て支援活動、矯正施設・更生保護施設らふじ等への激励訪問活動など多様でそれぞれの地域に密着した地道な活動を行っていただいております。感謝の意を表します。

このようなたゆまぬ御尽力によりまして、現在では、県下27地区、2,400名を超える会員を擁し、県下各地の更生保護女性会総会開催に当たっては、多くの御来賓が御臨席され、平素の御活動に対して、異口同音に称賛の声が寄せられており、各地域になくてはならない組織として認められるまでに定着しております。

昨今、幼子虐待を始め親子関係で心の交流が乏しいこと等が原因で社会の耳目を衝動させる事件の発生が後を絶ちません。これらの背景として、どの地域でも、少子高齢化に伴う単身世帯の増加等で隣近所同士顔なじみが少なくなっていることで、気軽に相談できる相手も少なくなる傾向にあります。これこそ、更生保護女性会の強みである「ほっとけない」、「困っている人の世話をしたい」と言った世話焼き精神を生かして、地域の行政機関や他の団体を巻き込み、特色ある子育て支援や様々な問題を抱えた家族の話し相手役になっていただくなど新たな活動が生まれるのではないのでしょうか。

時代は平成から令和に移りましたが、これまでの地域に根ざした活動実績を踏まえ、昨年の更生保護女性会中央研修のテーマとなりました「地域を編む」ように他に社会に貢献されている方々と楽しく交流するなどして特色のある活動を益々展開していただくことを祈念申し上げます。



郷土愛

島根県更生保護女性連盟
会長 板倉 靖子

「平成」が終わりを告げ、「令和」という新しい時代を迎えた今年も、残すところひと月足らずとなりました。皆様方には島根県更生保護女性連盟の活動に日頃よりご協力を賜っていますこと、厚く御礼申し上げます。とくに「社会を明るくする運動強調月間」には、暑い中、愛の募金活動に大変お世話になりました。ありがとうございました。

今年もまた台風被害のため、数多くの方々が犠牲とられました。衷心よりご冥福をお祈りいたします。また、災害にあわれ、不自由な生活を余儀なくされている皆様には、心よりお見舞いを申し上げます。

令和元年幕開けの今年、更生保護制度は、施行70周年の節目を迎えました。10月7日には「更生保護制度施行70周年記念全国大会」が、天皇皇后両陛下ご臨席のもと、関係者5,000人が東京国際フォーラムに相集い、開催されました。そして中国地方記念大会は、10月30日に鳥取市で、島根県大会は11月21日に大田市にて開催されました。70年もの長い年月を、更生保護の為に尽力された数多くの皆様方のご努力とご労苦を思いますと、頭の下がる思いでいっぱいになります。

私たち更生保護女性会は、昭和33年7月、県下でいち早く益田市において結成され、昨年60周年の記念事業を開催されました。その後、斐川、松江などで産声上がり、爾来流れた60年の歳月に、歴史の重みを感じずにはられません。

「私はね、この町に生まれ、この町で育ち、この町が大好きなの。この町を良くしたいという思いは、誰にも負けんよ。郷土愛は誰にも負けんよ。だから、更女の活動を続けているよ」とおっしゃった、ある先輩の言葉を思い出します。「犯罪や非行のない、安心して安全な町で、心豊かにくらしつてゆく」ことは皆の願いです。その為に、努力を惜しまず力を合わせて、更女の活動を続けていくことが、強い郷土愛となり、よりよい町づくりに繋がっていくのだと教えて下さった気がします。それぞれが暮す「町」を良くするため、一人ひとりの「誰にも負けない郷土愛」を結集して、更女の活動を今後も皆さんと一緒に続けていきたいと思っています。



ごあいさつ

松江保護観察所
保護観察官 吉浦 茉美子

本年4月1日から更生保護女性会を担当しております、保護観察官の吉浦茉美子（よしうらまみこ）と申します。平成29年4月1日付けで山口保護観察所からやってまいりまして、早2年半が経過いたしました。出身は山口県周南市（旧：徳山市）で、コンビナートの夜景や、悩むように頭を抱えるポーズでブレイクした、徳山動物園のマレーグマ「ツヨシ」が有名です。最近、周南（にゃん）市とネコブームに便乗した売名行為をしているようです。

島根県には、幼い頃に家族と島根県立しまね海洋館アクアスや仁摩サンドミュージアムを訪れたことを鮮明に覚えています。島根県に転勤して驚いたことは、肌が綺麗な方が多いことです。島根県は2012年から4年連続で美肌グランプリを受賞し、2018年もグランプリであったようです。赴任して2年半、美肌の湯として有名な玉造温泉に何度か足を運び、私も肌がつやつやになってきたように思います。そして今後も皆様のように、潤いのある肌を保ちたいものです。

さて、昨年度までは地区担当官として、更生保護女性会の皆様には社会貢献活動や更生保護施設らふじにおける行事などで関わることしかありませんでしたが、今年度は皆様のさまざまな活動に関わり、お手伝いできることを楽しみにしております。皆様の立ち振る舞いひとつから学ばせていただくことも多く、私も皆様の明るい笑顔に救われている一人です。

皆様の活動が楽しく活発に展開されますよう、また、私の話術が向上し、皆様をより一層笑顔にできますよう、精一杯努めさせていただきますので、御指導御鞭撻の程、よろしく願いいたします。



第56回 日本更生保護女性の集いに参加して

佐田地区 和田智恵美

6月13日、第56回日本更生保護女性の集いに参加しました。多数のご来賓と、全国から400名の会員参加のもとで「集い」



が進み、受賞式では、250名（内島根県4名）が全国更生保護女性連盟会長表彰の栄に浴させていただきました。身の引きしめる思いでございました。まず日本更生保護女性連盟 千葉景子会長、そして来賓の方々のご挨拶と続き、共に『今年は更生保護制度施行70周年に当たる。時代は「令和」を迎え、新しい時代の幕明けである。これからの更生保護がどの様な方向に進んで行けばよいかをしっかりと考え、次へのステップにつなげる出発点としたい』とのことでした。

「集い」後半での国会関係の用務で途中退席の保護局長のメッセージには、参考になることが多くその一部を記します。

『更生保護が今どこに立っているのかという点につい

て、昨今の法制度の動きを参考にしながら触れたい。社会的孤立の生きづらさは多様であり、昨今報道されて痛ましい事件の数々をみても複雑化しており、このことが犯罪や非行にも影響していると思われる。そこで「再犯防止推進法」が平成28年に公布・施行され、更生保護制度は、この新法により新たに「実社会に開く」役割へと形を変えた。

地域社会において、自立し定着するまでの長い道りを息長く支えるという発想と地域社会の多様な分野がネットワークを組んで社会復帰を支えるという発想が鮮明に打ち出されている。更生保護は、そのような期待を担ってはいるが、この方向性は、日更女の活動の歩みそのものであり、日更女の歩みが更生保護制度の進化を先導してきたといえる。』

講演では、講師 外国人教育生活相談センター 信愛塾センター長 竹川真理子氏が「外国にルーツを持つ子どもたちに寄り添って」と題してお話がありました。

その中で現在、外国籍の子供さんが非常に多いという状況の教育現場もあり、外国の方と共に生きる社会を築くために、様々な活動が行われていることを知りました。



「中国地方更生保護女性連盟 結成55周年記念大会」に参加して

江津地区 山脇 里美

令和元年9月5日～6日アークホテル広島駅南に於いて、初日に「中国地方結成55周年記念大会」、翌日には「更生保護女性会活動の原点に立ち帰る」をテーマとした「中国地方更生保護研修会」が開催されました。



中国更女会長表彰 山脇里美会員

記念大会では女性連盟会長幟建末子様の式辞から始まり、来賓の方々よりご挨拶・ご祝辞を頂きました。ご挨拶



講演 大沼えり子氏

の中で、心を一つに地域に根差した55年にもわたる更生保護女性会の活躍を称えられました。続いて委員長感謝状・女性連盟会長表彰の授賞式があり、各県代表者が受賞いたしました。

講演会の講師として迎え

た大沼えり子さんは、保護司として少年院退所者を支援するだけでなく、ロージーという名で北海道・東北地方にある3か所それぞれの少年院放送のラジオDJをなさり、また、映画「君の笑顔に会いたくて」の作者であり、シンガーソングライターでもあるという多才な女性でした。

軽快な音楽と歌声で始まった講演は驚きでしたが、自らの経験をもとに熱い想いで話され、感動を呼ぶ講演会でした。

研修会では①「ミニ集会の在り方」②「三者宣言に基づく保護司及びBBS会員との連携」③「会員増強及び資金造成」についての分科会があり、それぞれの方策について充実した協議が行われました。

「地域との連携・協働活動推進地区の実践活動報告」では、鳥取・山口・島根（益田地区）から立派な活動報告がありました。

最後に講評として中国地方更生保護委員会委員長さまより、「更女は各地区になくはない組織、こつこつ活動してきた前任者がどんな思いで始めたかを思いつつ、続けてきた活動に勇気をもって前に進んでほしい」と話されました。



広島更女から参加者宛和菓子（ホゴちゃん和サラちゃん）

更生保護制度施行70周年記念 全国大会に参加致しました

斐川地区 江角 佳子

令和元年10月7日、5,000人の参加者で埋め尽くされた東京国際フォーラムで、更生保護制度施行70周年記念全国大会が開催され参加致しました。開式の辞、黙とうのあと、割れんばかりの拍手に包まれた中を天皇皇后両陛下がご臨席され、国歌を斉唱しました。

法務大臣並びに東京都知事の主催者挨拶に引き続き、法務大臣表彰（松江15名）、法務大臣感謝状（松江更女3名、BBS 1名）、全国保護司連盟理事長表彰（松江14名）等の顕彰がありました。続いて天皇陛下からお言葉を頂き、そのあと内閣総理大臣、衆議院議長、参議院議長、最高裁判所長官、日本弁護士連合会会長の来賓挨拶がありました。

皆様それぞれの立場から感謝とねぎらいのお言葉、生活の中で地味ではあるが大切な活動の更生保護制度が施行されて70周年を迎えた今までと、これからの願いをお話くださいました。このような方々からのお言葉を頂戴し、私たち

の今までの活動を振り返り、今後の希望と責任の重さで身の引き締まる思いを禁じませんでした。

70周年という記念すべき全国大会に参加し、法務大臣感謝状を頂きました永田（美保関地区）石川（玉湯地区）江角（斐川地区）は、遠目とはいえ、天皇皇后両陛下の神々しいお姿を拝見した感激の余韻に浸りながら会場を後にしました。

更女活動の更なる充実・拡大を図りながら、今後を見据え、後継者を育てるにはどうしたらよいかなど、令和の時代に向けての新しい課題が見えてきたような気がいたしました。



平成30年度 日本更生保護女性会員 中央研修会に参加して

隠岐の島地区 石橋 史子

当研修会が、昨年10月23日から25日まで二泊三日の日程で、アルカディア市ヶ谷私学会館(東京)を会場に『地域を編む』をテーマとして開催されました。全国から会員100名が集い、県更女からは野津千洋子さん(宍道地区)と参加しました。

開講式では、法務省保護局畝本直美局長のあいさつ、続いて日本更生保護女性連盟千葉景子会長から『地域を編む』をテーマにご講話を頂きました。「地域を編む」という言葉は雲をつかむような思いでしたが、3日間の講義やワークショップでの会員同士の話し合いの中で、『地域を編む人』になるための必要なことが少しわかってきたように思いました。

1日目は日本ファッション協会の鈴木まり子氏による『地域を編むためのコミュニケーション』と題したワークショップでした。更女が「地域を編む」とは、地域において人や団体と連携しながら一人ひとりが人として尊重され、心豊かに生きられる明るい社会をつくりあげていくこと。私たちができることを具体的に話してくださいました。お互い気楽に話し合いができる「知り合いタイム」の設定等では、場を作るための手立てが紹介され、本当に以前から知り合いのように楽しく協議が

できました。

2日目に続き3日目は『地域での支え合い～新しい地域のつながり作り～』のワークショップで、会員から出されたテーマごとに11のグループに分かれての協議でした。私は保護司との関わりの少ないことが課題と思っていましたので、「保護司と一緒に活動する場づくり」に参加しました。地域によって大きな差や課題もありました。保護司との行事の共有、予算面の補助、保護司新聞に更女のスペースがあるなど連携している様子は参考になりました。待つのではなく更女の方からの働きかけも必要だということを感じました。

3日間の研修を終え全国各地での更女の活発な活動、また課題等、様々なことを学び、これからの更女活動に少しでも活かしていきたいと思いました。何よりもたくさんの方と知り合えたこと、内容の深いとても有意義な研修会を終えました。



講師の先生方を囲んで 中国・四国地方の参加者

平成30年度 更生保護女性会 新会員研修会に参加して

加賀地区 小川美知子

「更生保護女性会」は犯罪を犯した人や非行のある少年が通常の社会生活をしながら社会の一員として立ち直るよう支援する活動をしたり、国の機関や民間のボランティア団体と協働して取り組む組織であることを学びました。

昨年秋より“社会を明るくする運動”のたすきをつけ、月1回通学路や小中学校の校門前であいさつ運動をしています。

更女の活動は、あくまでもボランティアです。全員が楽しく、やって良かったという活動をこれからも続けていこうと思います。



島根町では更生保護の対象となる人はあまりおられないので、子ども達の健全育成に務めたいと思います。

更女は高齢化が進み会員もなかなか増えない現状では活動しにくい面もあります。更女の存在を知らない人達もおられますので、町内の催物などで知ってもらおうアピールをしたいと思っています。

これからも、更女として、国の機関や島根県等が実施する再犯防止施策の推進に協力してまいります。

平成30年度 更生保護女性会 新会員研修会



日程：平成30年10月18日（木）
場所：松江保護観察所 会議室

松江保護観察所
島根県更生保護女性連盟

平成30年度 保護司・更生保護女性会員・BBS会員 三者連携強化研修に参加して

大社地区 金築 智子

平成30年10月23日、島根県立男女共同参画センターに於いて、松江保護観察所主催の三者連携研修会に参加致しました。保護司17名、更女24名、BBS会員3名の計44名の参加がありました。

最初に企画調整課長上谷様の講義をお聞きし、その後5班に分かれてグループ討議を行いました。まず、班ごとに自己紹介をし、各地区の活動実態を話し合い、つい熱が入り時間オーバーとなりました。次に事例の報告があり、保護司会・更女の連携事例ではとても参考になるお話を聞きました。私たち大社更女の活動では、毎年保

育園・幼稚園・小学校に紙芝居訪問をしています。紙芝居のキャストに保護司さんに参加していただき、お父さんの声をお願いするなどのアイディアも生まれました。

浜田地区のBBS会の3泊4日の通学合宿の事例では、学生さんたちがペットボトルで風鈴を作って子供たちと遊んだり、ドラム缶風呂でお風呂に入ったりと、若者ならではの活動も興味深く聞きました。

大社地区でも通学合宿（6泊7日）を20年以上続けており、朝食・昼食それに夕食づくりにお手伝いに行っています。

最後に課長様が、「今日は時間がないくらい熱く語っておられ、ボランティアの基本は楽しくないと続きません。今日は笑顔で発表されていてよかったです。」とおっしゃいました。とても実りの多い研修会でした。



益田市更生保護女性会 平成30年度「地域との連携・協働活動推進地区」実施結果報告

益田市更生保護女性会 会長 宮川 公子

益田市更生保護女性会では、どのような取り組みをどのように紹介すればいいだろうかと、何度も議論を重ねていたところ、ある時の総会で講師先生から「益田更女は県下で一番最初に設立され60年間継続されている」ということを聞きました。市民の方々に「更女」の存在を知っていただくと同時に会員自身もそのことに改めて誇りを持ち、今後の活動の活力となれば幸いとの思いから「設立60周年記念式典及びフェア」の開催の運びとなりました。その報告をさせていただきます。

事業（行事）名

「益田市更生保護女性会 設立60周年記念式典&フェア」

事業（行事）の目標

- 更生保護女性会（市民公益活動団体）と会員の存在の周知及び会員同士の親睦
- 島根県内で最初に設立され、60年間継続していることの周知

連携・協力した機関・団体名

法務省関係・地方公共団体・地域・公民館・民生関係 等

事業（行事）の準備

(1)どのようにしてその機関・団体との連携の糸口をつかんだか

- 更生保護団体と連携・協働し、その関係で益田市の広報（益田市全戸配布）にイベント情報案内の掲載を依頼する
- あらゆる分野にイベント活動の説明に向向く（趣旨説明、協力など）

(2)どのように意思疎通を図り、協力体制を作っていたか

- パンフレットを配布し、更女の活動を知っていただく
- 根気強く説明する（地区、公民館、民生児童委員会等）
- 会員は会員の手作りの毛糸のバラの花のブローチを胸に一体感を強くする

事業（行事）の内容

- 日時 平成30年10月30日
- 場所 益田市社会福祉協議会 大集会室
- 内容 60周年記念式典を行う
更女の60年の歩みを紹介、同時に更女活動を知っていただく
昼食をメインに会員同士の交流を図る
各地区更女の活動を一堂に出し、見て、買って、食べて、おしゃべりして、各地区の取り組みを知り、親睦を図る
刑務所の矯正展や、保護司会や雇用主会の出店ブースもあり協力をいただく
(益田地区には刑務所等の施設がないため、こういう機会でないとお会えない)

事業（行事）のふり振り返り

(1)実施して効果があったと思われる点、今後につながると思われる点

- 協力機関を通じて、市民にも「更女」の存在をアピールできた
- 他地区の会員との交流ができた（隣県の山口からも参加あり）
- 「団結すればできる」という自信が持てた

(2)反省点、今後の課題は？

- 今後人口減少や高齢化が進む中、活動を維持できるかが各地区共通の課題
- 女性だけでなく、地域の男性の協力も必要不可欠

益田市更生保護女性会 設立60周年記念式典 フェア開催

平成30年10月30日、益田市更生保護女性会設立60周年記念式典 益田市長はじめ総勢約300名の来場者があり、華やかににぎわいました。

最前列には設立創始者の楯氏ゆかりの写真を飾り、その功績をたたえとともに更女の歩みを振り返りました。

ステージの裾には毎月の活動の一つである生花教室のお花を飾り、華やかさに一役買いました。



お隣の山口県から、山口刑務所の矯正展を出店していただきました。ふだん益田では、なかなか触れる機会のないことで、見聞を広げることができました。ご協力に感謝いたします。



お米やジャム、パン、ケーキのコーヒーなどなど地区の様子を聞きながら売ったり買ったり良いコミュニケーションの場となりました。



雇用主会の皆様も出店にご協力いただきました。



来場者のお弁当は 会員さんのご協力でできました。



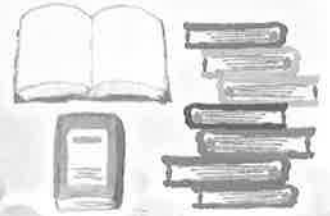
会員は会員手作りのバラのコサージュを胸に参加しました。

第58回愛の図書贈呈式を行いました。



県更女「愛の図書」贈呈先

- 松江刑務所
- 島根あさひ社会復帰促進センター
- 美保学園
- 松江少年鑑別所
- わかたけ学園
- 中央児童相談所
- 出雲児童相談所
- 浜田児童相談所
- 益田児童相談所
- 島根更生保護会
- 島根県女性相談センター



本との出会いは一期一会

しらふじ利用者 T・I
 私が漫画本以外の本を読むようになったのは、島根あさひ社会復帰促進センター在所中に、貴連盟が寄贈して下さった太宰治の人間失格を読んだことがきっかけでした。

読んでみると、時間を忘れてしまうほど太宰治の人間失格に没頭している自分がいました。これをきっかけに、様々な事に興味を持つようになりました。太宰治の人生についてであったり、彼と同様に自殺をして亡くなった三島由紀夫のことであったり、気が付くと興味の連鎖が止まらなくなっていました。特に、私は太宰治が好きで、

若くして亡くなったことが、無性に悲しかったことを覚えてます。

読書というのは、知識や喜怒哀楽を与えてくれるものであり、本に魅せられた私は、様々な本との出会いを楽しむようになっていました。本との出会いは、一期一会です。

私にこのような機会を下された貴連盟に感謝いたします。これからも、いろいろな本との出会いを楽しみたいと思います。現在は、しらふじでお世話になっておりますが、ここにも、貴連盟から寄贈された本が多数あり、引き続き読書を楽しんでいます。本当にありがとうございます。



しらふじ図書館



母親の願いのこもった満開の白藤

“こころ一つに…” しまねの更女

心ひとつに

広瀬地区 小林みず江

この頃のニュースをみますと、高齢者による事故やわけのわからない事件が毎日のように伝えられ、心を痛める日々です。

いろいろな会合に出席してみますと、更女の皆様方がそれぞれの地区の良さを生かして活動されておられるので、いつも感心しています。

他地区にも見られますが、広瀬地区は年々会員数が減ってきています。その中でも総会・愛の図書募金活動・“社会を明るくする運動”参加・お年寄りの見守り・会員研修を中心に実施しております。



総会には保護司様や警察署から警察官に講演をお願いし、地域の現状や今後の展望をお聞きます。愛の図書募金活動では更生保護女性会

の活動を知っていただき、浄財は地元の小中学校、こども園、保育園、子育て支援等に届けます。絵本の読み聞かせや紙芝居等での触れ合いを通し、道を外れず成長してくれることを願ってやみません。

お年寄りの見守りは、各団体から集まったメンバーが独り暮らしの高齢者を訪問して安否確認や話し相手になるなど、高齢社会になくしてはならない活動と自負しております。

会員交流と研修のために更生施設を訪問し、様々な勉強をさせてもらう研修会には多数の会員参加のもと自己研さんに励んでおります。

会員全員が心をひとつにして少しでも皆様のお手伝いが出来、後に続く若い人々が意志を引き継いでくれることを願っています。



保育所の窓掃除

伯太地区 為国 角

伯太地区更女は89名、4支部それぞれの地域に根ざした活動をしています。私達の安田地区は20名足らずですが、10年程前から保育所の窓掃除をしています。クリスマス発表会の前に都合のつく会員10名ばかりで2時間近く、外回りも含めて行います。保育室が5、遊戯室、ランチルームと安来市でも建物としては大きい方です。異動で初めて来られた所長さんは窓の多さにびっくりされるそうです。でも行事前私達のボランティアがあると知り安心されたとの話を聞きました。



10年程前、1人の会員さんが、当時募金の他は活動してなかったので、私達も何かしましょうよとの発案で始まり、春にはいも苗植え、秋にはいも掘りの補助、そしてクリスマス発表会の前の窓掃除と、都合のつく者が集まります。そしてクリスマスには招待して

頂き園児達のかわいい姿にたのしい一時を過ごさせて貰っています。食事会、保育所祭りなどにも参加させて頂きます。孫達が大きくなると保育所に出向く事もなくなり、会員も喜んで参加してくれます。忙しさに追われ自分のことばかり考えがちな今の時代、こうした地域のボランティアも大事なことはないかと思えます。掃除の後のお茶を頂きながら、時の経つのも忘れての話し合いは大事な交流の場としても利用しています。園児の成長を見ながら、これからも続けていきたいと思っています。



また今年も広報活動にも力を入れていきたいと会員と話し合っています。

「わかたけ学園」訪問

美保関地区 小川久美子

平成30年度の美保関地区更生保護女性会の総会は、11月12日「わかたけ学園」の訪問に合わせて行われました。マイクロバスの中では、1年ぶりに顔を合わせる会員もいて話はずみしました。

わかたけ学園では、園長様から施設の概要についてのお話を聞きました。園長様が美保関町の方であったので、親しみを持って話を聞くことができました。そのあと学校で授業を受けている様子を見学し、寮や食堂に案内されました。

学校での子供達は明るく意欲的に勉強に取り組んでいる様子でした。様々な活動を写したパネルが廊下に貼り出されていて皆良い顔をしていました。先生方が学力も人間性も向上するように指導されていることがよくわかりました。

ここに入るまでの過程にはさまざまな事情があった

と思われます。この学園で学び、ルールを身につけて生きる力を育て卒園し、成長して欲しいと願いました。

園長様がお話の終わりに、「いずれは地域に帰ってくる子供達です。皆さんには受け入れられる土壌を作って欲しい。」と言われました。私達も温かい心で支援していきたいと思います。



子どもたちの笑顔が消えぬよう!!

鹿島地区 中島 和子

鹿島町は松江市街地から西に車で十数分、広がる田園と緑豊かな山々が連なり、夏は海水浴客でにぎわう日本海を有し、全国から神々が集う佐太神社が鎮座する美しい自然と歴史、文化を感じる町です。

そんな中で更生保護活動を行っていますが、ご多分にもれず高齢化の波が押し寄せ、50人の会員数となってしまいました。何とか広くPRする為に、活動状況を手づくりパネルにし、鹿島地区文化祭に展示するとともに、啓発ビデオの上映も行っています。

そんな私たちが特に力を入れているのが、青少年の健全育成活動です。町内小学校、幼稚園、保育園に向いて、定期的に絵本の読み聞かせを行い、運動会、おもにつき等の行事に参加し、放課後子ども広場の子ども達と、折り紙、クラフトバッグ、流し染めづくり

などの昔遊びで交流しています。抹茶体験も喜んでくれます。昨年から、登校の見守りをはじめました。この様に、地域



流し染め 子ども広場の子ども

のかかわりを多く持つことによって、自然に親しくなり、声をかけあうようになり、町じゅうのおばちゃん達に見守られているのだと肌で感じて欲しいと願っているところです。

みんなの傍に「あなたたちを大好きに思っているおばちゃんがいるよ」と伝えていきたいと思っています。

平成21年度「ミニ集会」モデル地区活動の指定を受け、実践し、効果をあげたので、以後継続していこうと話し合い、支部の実情にあった活動、地域の人との交流会を続け、女性会の活動のPRにつなげていきます。



東小に絵本読み聞かせ



抹茶体験

更生保護女性会総会を開催

玉湯地区 板谷 裕子

玉湯地区更生保護女性会では、毎年総会を開催しています。去る6月30日、令和と新しい元号になったことを記念し、二つの企画を加えて開会しました。

一つは、玉湯駐在所よりト蔵巡査長をお迎えして、松江警察署管内の少年の補導状況、玉湯地区の現況をお話いただきました。インターネット、スマートフォン、電子マネー等の普及に依るトラブルの事案と、トラブルに巻き込まれない為の対策等もお話ししていただきました。

会員、それぞれ胸の中に納め、次の活動の一步になったように思います。

二つ目は、県の理事会で戴きました「コウくんときいろいはね」の絵本を、更女でもあり、お話しの時間コスモスのメンバーでもある福間さんに読み聞かせを



していただきました。

更女の会員皆が、子供にかえて、心一つになり聞き入りました。この絵本を小学校で読み聞かせに活用してもらおうよう、コスモスさんに贈呈させていただきました。

玉湯地区は5地区で構成されており、会員は、各地区3名程度で15名前後の少人数ですが、公民館活動の一員として、“社明運動”を始め、愛の図書募金活動を展開しています。毎年恒例の保護司との年1回の研修会・親睦会は、会員が楽しみにしている活動の一つでもあります。

令和となり、玉湯地区更女も新体制のもとで、新会員の入会という課題も有りますが、新しい時代になっても、会員が心一つになって、安心安全なまちづくりの為に、ささやかながらも力になれるよう協力し合って行こうと思っています。



こころを紡いで16年！

多伎地区 柳樂 利子

更生保護女性会の組織がなかった多伎町。当時の保護司の方の強い要請を受けて、保護司、民生・児童委員、青少年健全育成委員の会に属している女性で、平成15年に「多伎町更生保護女性会」を結成。〔更生保護女性会綱領〕の趣旨を理解し、多伎町更生保護女性会会則を制定。



以来、地域で人と人との心の絆を大切に活動されている多くの女性の方々に更生保護の趣旨を理解して頂き、賛同を得て会員の拡大を図り活動して来た。更生保護のこころを真に理解することはなかなか難しいこと。

〔更生保護女性会綱領〕の趣旨は、一人ひとりがお互いを尊重し合い、互いに相互理解する中で幸せに生きていくことだと思う。また、相手の心に寄り添い、自分の気持ちを無にして相手の立場を理解しながら、謙虚な心で活動することであると思う。

結成以来、総会の時、更生保護活動に献身的に活動

されている講師の方の講話を拝聴した。講師の講話に学び、会を重ね研修を積みながら、徐々に更生保護の心をくみ取り、各会員相互に心を磨く努力をしている。



近隣県や県内各地の更生保護施設へ訪問し、広い識見を得て、少しずつではあるけれども更生保護の心を深め、過ちに陥った人たちの更生の支えに微力ながら歩みつつある。

毎年、保護司のかたと連携して“社会を明るくする運動”の啓発活動に参加している。

最近では、総会の後に、会員自らが研鑽を深め、あたたかい人間愛を醸成するために、法務省製作の、罪を犯した人の更生をテーマにしたビデオを視聴している。

視聴後、「あたたかい人間愛とは？」を自らの心に問いつつ、明るい社会づくりに、微力ながら、会員同士の心を大切に紡ぎつつ誠意をもって活動している。



令和元年度 受彰おめでとうございます

令和元年6月13日に有楽町朝日ホールで行われた

第56回“日本更生保護女性の集い”では、

日本更生保護女性連盟会長表彰状が贈呈されました。

令和元年10月7日には東京国際フォーラムAホールで更生保護法施行70周年記念全国大会が

開催され法務大臣感謝状が贈呈されました。

また、令和元年11月21日にサンレディ大田で開催された第24回島根県更生保護大会では、

中国地方更生保護委員長感謝状・中国地方更生保護女性連盟会長表彰・松江保護観察所長感謝状の

授与が行われました。受彰されました皆様、おめでとうございます。

令和元年度被表彰者



- 中国地方更生保護委員会委員長感謝状 26名
- 中国地方更生保護女性連盟会長表彰 28名
- 松江保護観察所長感謝状 137名



編集後記

新元号令和を迎えてから約半年後の10月22日、天皇皇后両陛下が即位を宣言される「即位礼正殿の儀」のテレビ放映を厳粛な心持ちで見入りました。また本年は、更生保護法施行70周年を迎え、気持ちも新たに更女活動に取り組む時代を迎えたことに気持ちの引き締まる思いです。人生の中でこのような時代に生きていることに二重の喜びと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

ただ、年を追うごとに目を覆うばかりの災害が襲う気候変動には、身も心もすくんでしまいます。国が行政がと声高に叫んでも皆が被害者です。我々一人ひとりが何か少しでもできないものかと強く感じました。

(佳)

- 編集委員長 江角 佳子
 編集委員 板倉 靖子 野津イマ子 樋野 淑美
 杉山 悦子 山脇 里美 高木禮為子
 題 字 鐘築 章恵

